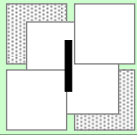


第2部 めざすべき都市像

Ⅰ めざすべき都市像



めざすべき都市像

基本的な考え方

豊かな生活と自然を育む

ものづくりのまち川崎区

- 1 魅力ある川崎駅周辺や身近な生活の拠点を育みます
- 2 安全で暮らしやすい住環境を育みます
- 3 地域間の連携を強化します
- 4 緑や水の環境を活かした潤いのあるまちを育みます
- 5 臨海部の再生をめざします

<都市像の背景・視点>

- ・川崎区は、本市の「広域拠点」として、川崎駅を中心に商業・業務・文化などの広域的な都市機能が集積しています。臨海部は京浜工業地帯の中核をなす地域として、産業機能や研究開発機能が集積し、川崎駅周辺地区との間には職住近接の住宅地が広がっています。
- ・一方、将来都市像を語る上で、川崎区がものづくりのまち・産業のまちとして発展してきた歴史や、川崎市の中で唯一、海に面している区であることなど、川崎区の地理的特性や歴史的経緯を踏まえて、川崎市の玄関となる区にふさわしい風格と魅力を備えた、豊かな生活と自然を育むまちをめざし、川崎区のまちづくりの基本目標を、「豊かな生活と自然を育む ものづくりのまち川崎区」とします。

① 「ものづくり」のまちとして、地域活力のあるまち

- ・川崎区の歴史を振り返ると、このまちは、「ものづくり」によって発展してきました。先人達の「ものづくり」に対する思いは、私たちに引き継がれ、今後も川崎区の発展のためには不可欠なものです。「ものづくり」は、近年の工業だけでなく、過去には桃、梨の栽培、のりの養殖があり、今では高度な技術や情報を駆使した先端技術産業、人や環境に貢献する環境産業へと発展してきています。こうした産業の振興により、地域活力のあるまちづくりを進めることが大切です。

② 多摩川・海・緑・歴史の資源・資産を活かしたまち

- ・川崎区は、川崎市の中で唯一海に面した区ですが、海（臨海部）へとつながる交通が十分に整備されているとは言えません。また、多摩川にも面していますが、貴重な自然空間が十分には活かされていません。
- ・川崎区には、こうした海や多摩川などの自然環境のほか、川崎大師や旧東海道といった歴史的な財産も多くあり、これらを活かしたまちづくりが大切です。

③誰もが暮らしやすく、安全なまち

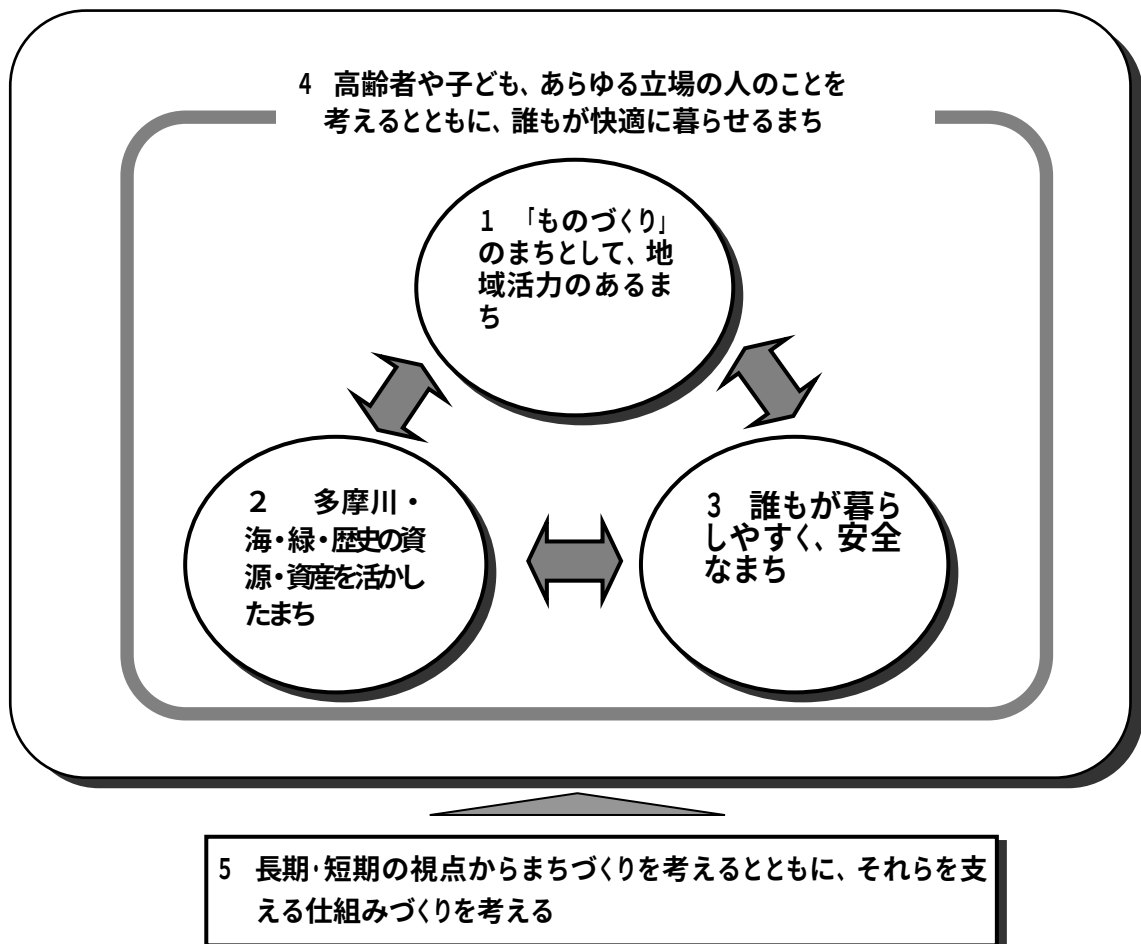
- ・誰もが暮らしやすいまちにしていけるためには、地域間のつながりがより良くなることや身近な商店街を活性化することが大切です。
- ・安全なまちをめざすには、歩行者が安心して歩ける空間の確保やまちの防災性を高めるために市民、企業、行政が連携して取り組むことも大切です。
- ・誰もが暮らしやすく、安全なまちづくりを追求することは、長期的にとらえれば、まちの活性化や人口減少の歯止めにもなる、大切なことです

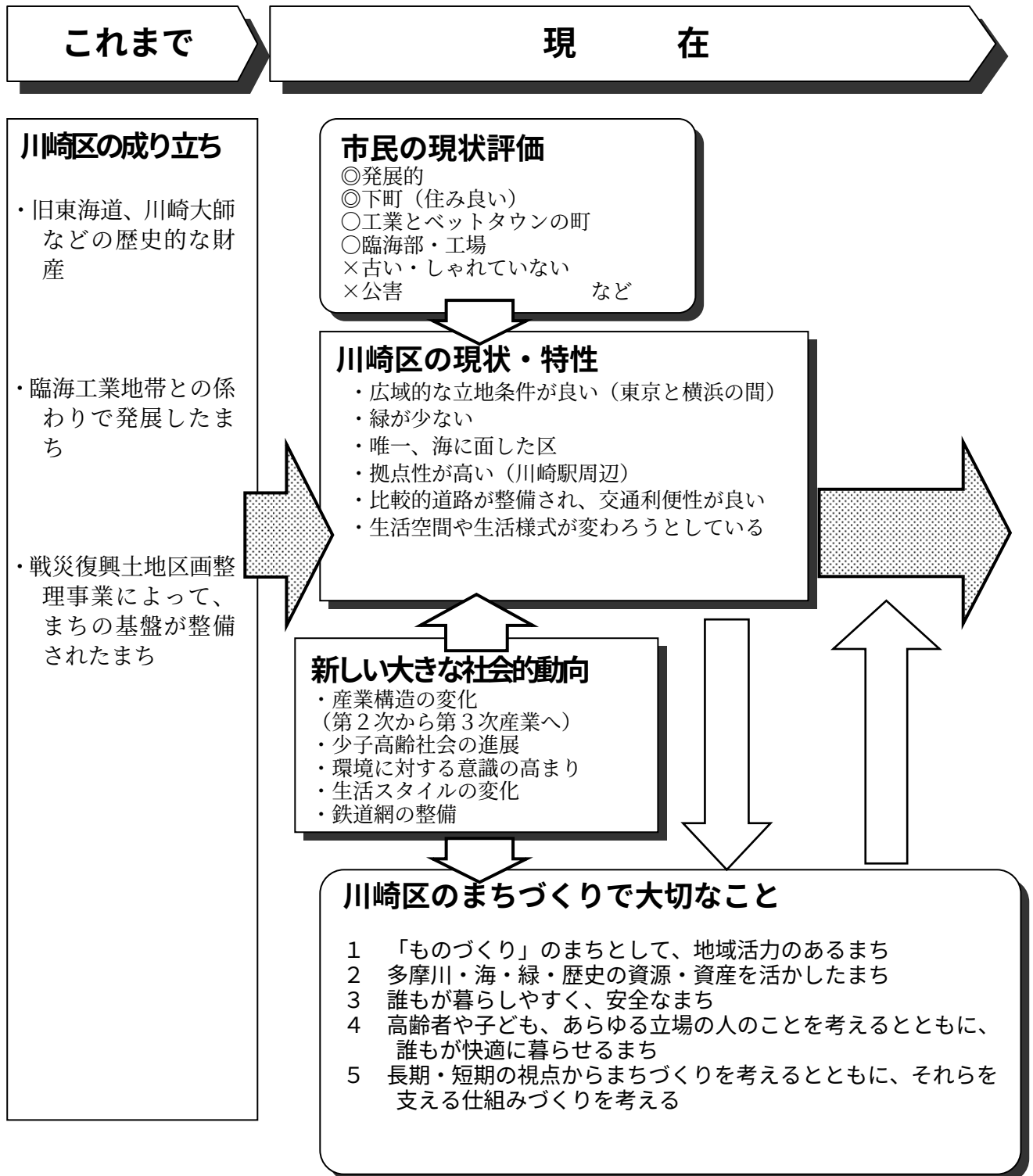
④高齢者や子どもあらゆる立場の人のことを考えるとともに、誰もが快適に暮らせるまち

- ・まちづくりを考える上で、高齢化・少子化の問題やまちのバリアフリー化についても考えていくことが大切です。川崎駅前のように人が多く集まる場所だけでなく、幹線道路などにおいても、放置自転車や歩道の段差などのまちのバリアや人の心のバリアを解消していくことが大切で、あらゆる人の立場に立ったまちづくりが求められています。

⑤長期・短期の視点からまちづくりを考えるとともに、それらを支える仕組みづくりを考える

- ・これからのまちづくりは、長期的な視点に立って取り組むことと、短期的な視点に立って取り組むことを分けて考えることが大切です。また、公園・道路といった「モノ」の整備だけではなく、人づくりやコミュニティづくり、あるいは、まちの個性や特徴を活かしていく仕掛けづくりなど、まちづくりを支える仕組みづくりを考えることも大切です





未 来

●まちづくりの基本的方向

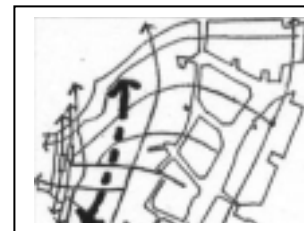
①魅力ある川崎駅周辺や身近な生活の拠点を育みます



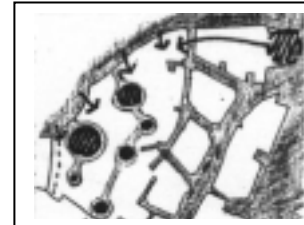
②安全で暮らしやすい住環境を育みます



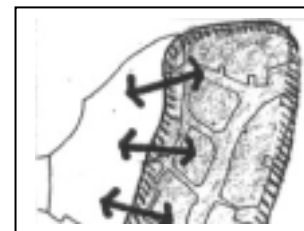
③地域間の連携を強化します



④緑や水の環境を活かした潤いのあるまちを育みます



⑤臨海部の再生をめざします



豊かな生活と自然を育む
ものづくりのまち川崎区

分野別の方針（第3章）

1 魅力ある川崎駅周辺や身近な生活の拠点を育みます

(1) 魅力ある川崎駅周辺地区をめざします

- ・本市の「広域拠点」として、市街地の再開発を進め、多くの人が集まり、広域的に魅力ある川崎駅周辺地区をめざします。
- ・駅周辺の交通施設や歩行者空間のバリアフリー化を進め、にぎわいのある商店街があり、歩いて楽しめる快適な川崎駅周辺地区をめざします。

(2) 地域資源を活かした大師周辺地区を育みます

- ・大師公園や多摩川等の地域資源を活かして、川崎大師の門前町として、歩いて楽しめる、回遊性の高い観光と商業のまちをめざします。

(3) 人と人がふれあえる活気に満ちた身近な商店街を育みます

- ・歩きやすく安全で買物がしやすく、人が集まる商店街をめざします。
- ・地区の特色を活かした、街なみ景観が整ったまちをめざします。

2 安全で暮らしやすい住環境を育みます

(1) 安心して快適に歩ける道路をめざします

- ・狭い生活道路の拡幅の促進や歩道の整備により、誰もが安心して歩ける道をめざします。
- ・身近な公園などをつなぐ散策路の設定等、地域における住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援します。

(2) 心地よい調和の取れた街なみを育みます

- ・住民の主体的な活動の支援により、木造密集住宅市街地の改善による、防災性の高いまちの形成をめざします。
- ・市民の交流の場となる公共施設のデザインの向上と地域の特性を活かした街なみ景観の形成をめざします。

(3) 地域コミュニティの連携により、災害に強いまちをめざします

- ・市立中学校等の地域防災拠点が整い、公園等が適正に配置された災害に強いまちをめざします。
- ・安全な避難路を確保し、安全で安心なまちをめざします。
- ・住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援し、地区コミュニティにおける防災対策が強化されたまちをめざします。

3 地域間の連携を強化します

(1) 地域相互の交流が活発なまちをめざします

- ・幹線道路網の整備による地域間の連携強化や臨海部へのアクセスの改善をめざします。
- ・大気汚染や騒音防止など周辺環境への影響の低減に配慮した道路整備をめざします。
- ・京急大師線の連続立体交差化や交差点の改良による交通渋滞の解消をめざします。

(2) 公共交通を中心とした交通体系をめざします

- ・ J R 東海道貨物支線の貨客併用化等、都市間・地域間の連携を強化する鉄道網の整備をめざします。
- ・ 地域間を連携するバスによる地域交通体系の整備をめざします。

(3) 歩行者、自転車、自動車が共存する道路をめざします

- ・ 誰もが安心して歩ける歩道空間の改善と沿道の街なみ景観の向上をめざします。
- ・ 歩行者、自転車、自動車が共存できる安全な生活道路の改善をめざします。
- ・ 住民や事業者の協力により、自転車駐輪場等の整備をめざします。
- ・ 道路緑化等による魅力ある道路空間の形成をめざします。

4 緑や水の環境を活かした潤いのあるまちを育みます

(1) 自然環境豊かな多摩川の保全と活用をめざします

- ・ 多摩川と海とのつながりや多摩川と市街地とのつながりを強化する歩行者空間の改善をめざします。
- ・ 多摩川の自然環境を活かした、河川空間の保全と活用をめざします。
- ・ 土地利用転換の機会をとらえ、市民が気軽に多摩川へアクセスできる歩行者空間の確保をめざします。

(2) 富士見公園や身近な公園の充実をめざします

- ・ 市民の憩いの空間となる富士見公園等の大規模公園の再整備をめざします。
- ・ 地域の特性を活かした身近な公園の再整備をめざします。

(3) 緑と水のネットワークをみんなで育みます

- ・ 市民健康の森（海風の森）など、住民が主体となった公園緑地の維持管理をめざします。
- ・ 事業所や地域の緑化活動の促進・支援により、緑と水のネットワークの形成をめざします。

(4) 旧東海道や川崎宿の史跡を活かした街なみを育みます

- ・ 住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援し、旧東海道の歴史を活かした街なみ景観形成をめざします。
- ・ 貴重な歴史的遺産や「ものづくり」のまちとしての「産業文化財」の保全・継承をめざします。

5 臨海部の再生をめざします

(1) 臨海部に水辺に親しめる公園・緑地の整備をめざします

- ・ 市民が集える水辺を活かした港湾緑地の整備をめざします。
- ・ 工場等の大規模な土地利用転換による運河沿いの水辺空間を活用した緑地やオープンスペースの確保をめざします。

(2) ものづくり機能の高度化と研究開発の機能の融合した臨海部をめざします

- ・ ものづくり産業と研究開発機関の集積を活かした工業地域の形成をめざします。
- ・ 事業所緑化や環境改善の取組の促進により、臨海部の環境再生をめざします。
- ・ 羽田連絡道路や幹線道路等の整備をめざし、臨海部や周辺諸都市との連携強化を進めます。
- ・ 大規模な工場等跡地の土地利用転換における水と緑の環境の創出や地域の防災性の向上、周辺市

街地の環境改善や市街地環境との調和をめざした計画的な土地利用の誘導をめざします。